



ともに考え、次世代へつなげる防災環境都市づくり

—仙台防災未来フォーラム2022

特集③

市では、杜の都の緑豊かな環境を基礎とし、東日本大震災の経験や教訓を生かした「防災環境都市づくり」を進めています。震災の記憶の風化や大雨災害などの多発化・甚大化が懸念される中、私たち一人一人が防災の担い手として考え、行動することが大切です。そして、年齢や性別、国籍等にかかわらず、多様な主体が防災に関わり、互いに連携・協力していくことが、防災力の高い都市の実現につながります。

3月5日には、市民が防災について学び、発信する「仙台防災未来フォーラム2022」を開催します。8回目となる今回のテーマは「杜の都の未来につなぐ わたしたちの防災・環境」。東日本大震災のみならず、気候変動に伴う環境問題やSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みなどさまざまな観点から、防災や環境を知る・考えるプログラムを実施。市民団体や教育機関、企業等、全95団体が日頃の活動内容を発表するほか、体験型のワークショップや楽しみながら防災を学ぶステージショーなども行います。

豊かな自然環境と震災の教訓を未来に引き継いでいくために、災害に強いまちづくりに向けて自分ができることを考えてみませんか。

—仙台防災未来フォーラム2022—

- 日時—3月5日(土)9:30～16:30
- 会場—仙台国際センター展示棟

〈プログラムの一部〉

◆発表

時間	催し名等	主催者/問い合わせ先
10:00～11:30	基礎から学ぶ仙台防災枠組 ●定員—48人(直接会場へ)	東北大学災害科学国際研究所、防災環境都市推進室 ☎214・8098
10:00～12:00	SDGs×防災×杜の都シンポジウム ●定員—68人(要申し込み)	政策企画課 ☎214・8475、仙台青年会議所
12:15～13:45	外国人と防災—災害時・防災に役立つ多言語情報・ツールの紹介 ●定員—48人(直接会場へ)	仙台観光国際協会 ☎268・6260、宮城県国際化協会

◆ワークショップ

時間	内容等
①10:00～10:30、 ②12:45～13:15	阿部清人先生の「防災エンスショー」(科学実験を通して防災を学びます) ●定員—①28人②24人(各回の開始45分前から展示室1・2出入口付近で整理券を配布します)

◆ステージショー

時間	内容等
12:00～12:30	エシカル・サステナブルファッションショー(市内の学生による、環境意識や防災をテーマとしたファッションショー) ●定員—100人(開始45分前から展示室1・2出入口付近で整理券を配布します)

※掲載内容は1月19日現在。最新情報等、詳しくはホームページをご覧ください

仙台防災未来フォーラム2022ホームページ
<https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2022/>



誰もが心地よく避難所を利用できるように

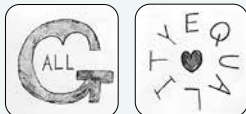
仙台防災未来フォーラム2022のブース展示に出展する仙台白百合学園高等学校1年生の皆さんにお話を伺いました



▲左から千葉容子さん、森凜々子さん、鉢呂智子先生、尾崎和花さん

外国人用防災パンフレットや、子ども向け防災絵本の制作などの取り組みを仙台防災未来フォーラムで発信してきた仙台白百合学園高等学校。今回のテーマは、性的マイノリティーを表すピクトグラムの開発だそう。

生徒の皆さんは「性的マイノリティーの方々が、災害時にトイレや入浴などで困って避難所に居続けられない現状を知り、トイレ等に掲示するピクトグラムを作ることになりました」と話します。検討を重ね、シンプルで分かりやすいデザインとなるよう工夫したとのこと。「当日は、私たちが考えた2つのピクトグラム案についてのアンケート調査を行います。ぜひご意見をお聞かせください」と意気込みを語ってくれました。鉢呂先生も「避難者の中にも多様な性の方がいるということを多くの方に知ってほしいと思います。彼女たちの活動が少しでも力になり、災害時に居場所の無さを感じることなく、誰もが過ごしやすい避難所になれば」と笑顔で話してくれました。



▲ピクトグラム案

この特集に関するお問い合わせは、防災環境都市推進室 ☎214・8098、FAX214・8497